

民生委員・児童委員の活動を発信!!



おおさか

特集

第63回 大阪府民生委員児童委員大会

◎イキイキ ハツラツ

民生委員・児童委員さん

東大阪市民生委員児童委員協議会

民児協だより

箕面市民児協／枚方市民児協

河内長野市民児協／貝塚市民児協

高槻市民児協



第63回大阪府 民生委員・児童委員 大会



特集

第63回 大阪府民生委員 児童委員大会

日時 平成23年5月13日 13時～15時30分
会場 大阪国際交流センター 大ホール



5月13日、大阪府国際交流センターで開催された第63回大阪府民生委員児童委員大会。府内の民生委員・児童委員（約800名）が参加、多数の来賓を迎えて、活動事例発表、永年活動者への表彰、記念講演等が行われました。

守口市の小川会長の開会のことばでスタートした第一部は、「民生委員児童委員信条」「児童憲章」朗読のあと、主催者あいさつとして橋本徹大阪府知事のメッセージを締山哲男副知事が代読。「東日本大震災での民生委員・児童委員の活動が多くの人たちを励まし、救い



大阪府社会福祉協議会
梶本 德彦 会長



大阪府民児協連
羽原 義人 会長



大阪府
締山 哲男 副知事

■ 表彰状・感謝状授与者

厚生労働大臣特別表彰	255名
大阪府知事表彰	
永年勤続民生委員 会長・副会長表彰(10年勤続)	2名
永年勤続民生委員副会長表彰(10年勤続)	2名
永年勤続民生委員表彰(20年勤続)	30名
優良民生委員表彰(10年勤続)	78名
優良主任児童委員表彰(10年勤続)	3名
社会福祉事務職員に対する 大阪府民生委員児童委員協議会連合会 会長感謝状	70名

活動事例 発表

第63回大阪市民児童委員会



「子育て支援事業『みんなあつまれ』の活動を通して、地域ぐるみで子育て中のお母さんたちをサポートしていきたい」と述べる河内長野市民児童委員会の辻野部会長。

続いている。私たちも大阪府として、民生委員・児童委員活動とともに、さらに連携を深め、公民協働で取り組んでいきたい。今後もさらなるご協力をお願いしたい」と述べました。

その後、大阪府民児童委員連絡会の羽原義人会長が「平成23年度は、寄り添う援助活動の推進と、顔の見える民生児童委員活動により一層、力を注いでいきたい」と開会のあいさつ。続いて大阪府社会福祉協議会の梶本徳彦会長が「東日本大震災義援募金協力へのお礼と、福祉と共生のまちづくりの実現に向け、これからもご協力願いたい」とあいさつしました。

活動事例の発表は河内長野市民生委員・児童委員協議会の辻野晶子さんから。「河内長野市民児童委員連絡会には11の縦割り組織(地区別民児協)と5つの横割り組織(障がい部会・高齢者部会・児童部会・主任児童委員会・広報委員会)があります。子育て支援事業『みんなあつまれ』は主任児童委員会が中心になって企画。4年目となつた昨年度は、主任児童委員を14人に増やしたこともあり、内容もさらに充実しました。動く紙芝居もプログラムもすべて手づくり。多くの方に参加してもらうために、広報紙『みじか』(見える、近づくの意)でも活動をPRしました。縦組織と横組織の組み合わせで、要支援者に対して、より身近で効果的な活動を開いていきたいです」と発表を終えました。



司会

吹田市民児童委員会
安藤シゲミさん





永年勤続民生委員表彰 代表
門真市民児協
川西 利則さん



永年勤続民生委員副会長表彰 代表
豊中市民児協
田中 奎介さん



永年勤続民生委員会長・副会長表彰 代表
高石市民児協
山崎 雅雄さん



厚生労働大臣特別表彰代表
大東市民児協
石川 安一さん

優良民生委員表彰 代表
河内長野市民児協
道上 清己さん



表彰状授与式では370名の民生委員・児童委員と70名の福祉事務職員が表彰され、代表者に表彰状・感謝状が授与されました。

来賓代表として近畿厚生局の上森宏邦・健康福祉部長や、大阪府市長会・大阪府町村長会代表として向井道彦・泉南市長(メッセージ代読)からご祝辞をいただきました。最後に、要援護者を地域で支える多様なセーフティネットの構築と薄れつたつながりの再構築のための6項目の取り組みを、第63回大会宣言として採択し第一部を終了しました。

第63回 大阪府民生委員児童委員大会 大会宣言

- 一、住民一人ひとりの置かれている状況や思いを真摯に受け止め、住民の対場に立った「寄り添う」個別援助活動を推進します。
- 一、複雑で困難な生活課題を抱え支援を必要とする人々への見守り・相談支援活動を着実に進め、地域住民とのつながりづくりに取り組み、孤立・孤独をなくすための活動を推進します。
- 一、子育て中の家庭を支えるとともに、子どもを児童虐待や犯罪被害から守り、子どもが健やかに成長できるよう取り組みます。
- 一、災害時に要援護者を地域全体で支えられるよう、平時からの活動を活かした安否確認体制や各種団体とのネットワーク構築に取り組みます。
- 一、被災地の一日もはやい復興に向けて、民生委員・児童委員として求められるあらゆる支援について全力で取り組んでいきます。
- 一、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの実現に向けて、民生委員・児童委員の地位向上と社会的評価の高揚を目指し、「顔の見える民生委員・児童委員」としての活動推進および、住民や関係機関・団体への働きかけを積極的に進めます。

平成23年5月13日

第63回 大阪府民生委員児童委員大会



社会福祉事務職員に対する
府民児協連会長感謝状 代表
高槻市民児協
川端 英雄さん



優良主任児童委員表彰 代表
枚方市民児協
貞利 富士美さん



第二部は高崎健康福祉大学の金井 敏教授を迎えての記念講演。家族構成の変化や多様化する各種ストレスに対応するこれからの地域福祉、そして民生委員・児童委員活動のありかたについてお話しいただきました。



● 地域の頼り人をめざして

これからの中 民生委員・児童委員活動

(支援ニーズの変化 ネットワークの時代へ)

昭和から平成前期、そして現在へ、地域福祉の力が大きく変化しています。昭和の時代は行政主体の特定の人への福祉。平成前期は市町村行政+サービス補助、ボランティアの小地域福祉の時代。平成後期は介護保険の登場で、市町村+介護事業者+市民活動というパートナーシップの時代へと大きく変化しています。支援者側の機能もそれぞれ特化・明確化はじめています。それぞれの機能を上手に組み合わせるネットワークの時代といえます。

(ソーシャルワークのチーム員として)

今、福祉の仕事はケアワークからソーシャルワークへと変化しています。かつては福祉イコール介護、つまり、ご本人の快適な生活動作を整えるケアワークが主体でした。家族構成や社会環境が大きく変化した今、福祉に対するニーズもどんどん変わり続けています。介護というケアワークに加え、ご本人や家族が自立して生活できる環境を整えるソーシャルワークが求められているのです。行政と専門事業者と民児協がそれぞれの特性を活かしたネットワークを構築する。そして、それがソーシャルワークのチーム員として力を合わせて活動する。それがこれからの福祉のカタチです。介護を必要とする人々はますます増えています。

(支援スピリットの基本は 「共生と見守り」)

では、民生委員・児童委員はネットワークの一員としてどんなふうに福祉活動に取り組んでいけばいいのか。ひとことで言うと、「共生見守り」です。「共生」とは支援される人も民生委員・児童委員もその周辺に住む一般生活者も、同じ地域の住民として互いに助け助けられる関係であるという意識です。ボランティアという一方向活動ではなく、お互い様活動という双方向の意識を持つことが大切だと思います。「見守り」とは・早期発見・早期対処・危機管理・情報提供・不安解消という5つの見守り活動ができる地域をつくることです。

「ネットワークの活用」と「共生と見守り」今後の民生委員児童委員の方々の活動スピリットだと思います。



●高崎健康福祉大学 健康福祉学部
社会福祉学科 教授

金井 敏さん

大学・大学院教授として地域福祉に関する実践や理論を研究。社会活動も群馬県社会福祉士会監事、日本地域福祉研究所所員、ひろば編集委員・民児協手引き作成作業委員、群馬県地域福祉ヒューマンネットワーク会長…と数多い。

す。人数はもちろんですが、お年寄りから子どもまで年代的にも幅広くなっています。そして、身体的支援、精神的支援、環境的支援、経済的支援…とそのニーズもさまざまです。支援者側もお互いの特性・専門性を活かし、お互いの力を活用し合いながら活動することが求められているのです。



民生委員・児童委員さん

●東大阪市民生委員児童委員協議会●

社協との協働で要援護高齢者への災害時支援活動を推進



東大阪市民
児協で西第一
地区会長を務
める大北氏。

東大阪市民児協では、6年前から「災害時一人も見逃さない運動」を展開しており、要援護者台帳や、それをもとにした災害福祉マップを作成するなど、災害に備えたさまざまな取り組みを進めています。また、東大阪市と東大阪市社協が毎年実施している「ひとり暮らし高齢者訪問相談事業」において、民生委員が調査を実施し、一人暮らしの高齢者への見舞い品を配付するなど、日常的に高齢者の良

東大阪市民児協では、6年前から「災害時一人も見逃さない運動」を展開しており、要援護者台帳や、それをもとにした災害福祉マップを作成するなど、災害に備えたさまざまな取り組みを進めています。また、東大阪

第一地区会長と福祉と共生のまちづくり部会長を務める大北氏と東大阪市社協の西事務局長に、東大阪市における災害時支援活動の取り組みや今後の課題などについて伺いました。

東日本大震災を受け、防災対策への関心がよりいつそう高まっている今、地域福祉の担い手である民生委員・児童委員にも大きな役割が期待されています。

今回は、東大阪市民児協で西第一地区会長と福祉と共生のまちづくり部会長を務める大北氏と東大阪市社協の西事務局長に、東大阪市における災害時支援活動の取り組みや今後の課題などについて伺いました。

災害時は民生委員が高齢者の安否確認へ

一方、東大阪市社協では、阪神・淡路大震災の後、災害時支援活動マニュアルを作成しました。ただし、当時のマニュアルは、

災害時支援活動について語る東大阪市社協の西事務局長。



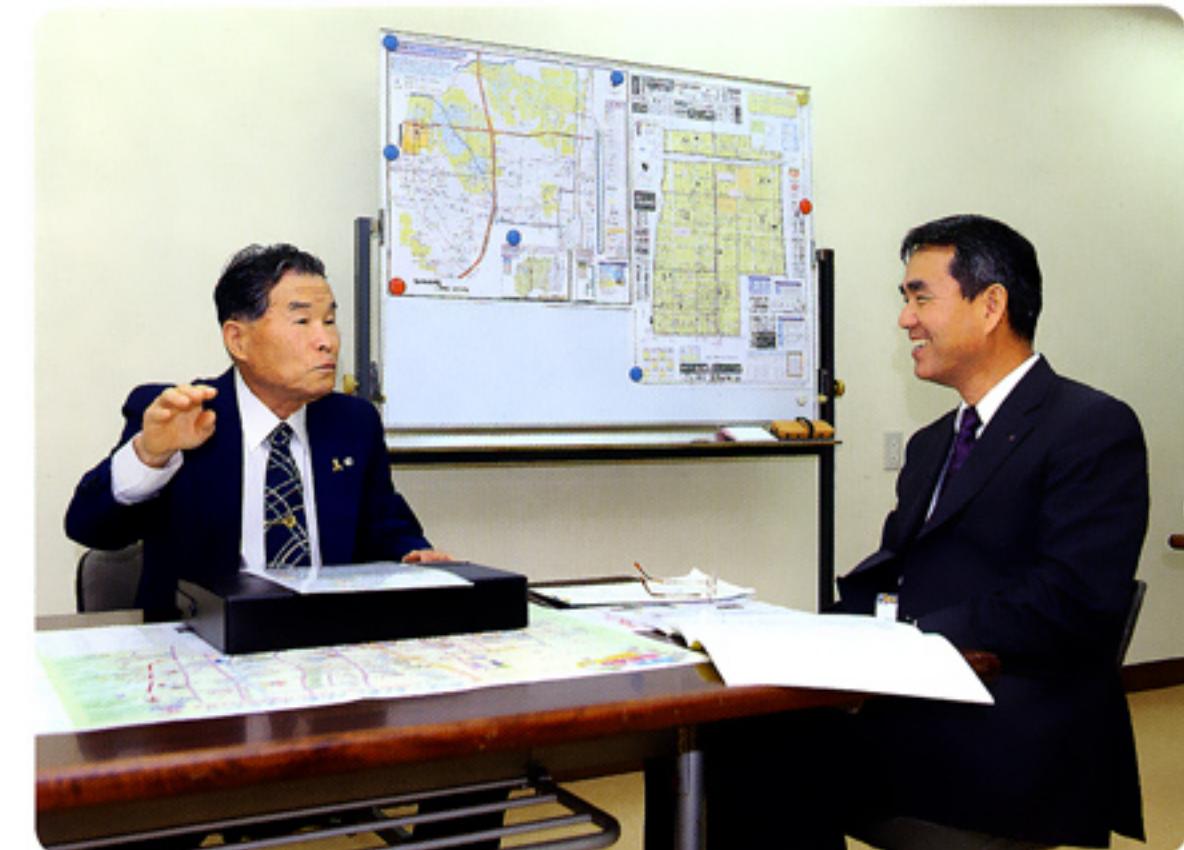
社協の職員が災害時にどう対応するかだけをまとめたものであった。ただし、当時のマニュアルは、見直すことに。その際、一人暮らしの高齢者が日頃から頼りにしている民生委員に協力を依頼。大規模災害時には、民生委員が一人暮らし高齢者や、高齢者世帯、寝たきり高齢者などに対して、災害後すぐに「要援護高齢者の安否確認調査（第一次）」を実施することを決定しました。発生1カ月後にも「要援護高齢者の生活状況調査（第二



東大阪市社協作成のマニュアルと、一人暮らしの高齢者へ配付している「あんしんカード」。カードには緊急連絡先などを記入します。

**福祉票で
高齢者世帯の
実態を把握する**

こうした災害時の活動のもとになるのが、要援護者台帳、そして福祉票です。福



次）を行い、地域の状況を把握します。



福祉票には、災害時に民生委員が安否確認をし、避難所まで誘導する旨が記載されています。とはいっても、実際に大規模災害が起つた時に民生委員一人だけでは対応できません。「災害時には、町会長や防犯委員などさ

ども、高齢者世帯の実態を把握に努めます。

福祉票は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の方々の健康状態や介護保険などの利用状況、家族状況などを調査するもので、今年度からは新たに「災害時の対応」という項目を設定。「避難所までの移動は自分自身で行うのか、家族や友人など避難を助けてくれる人が周囲にいるのかなどを今回、初めて調査することにしました」と西事務局長。民生委員が調査で各高齢者世帯を回り、各担当校区の実態の把握に努めます。

さまざまな人たちが協力して取り組んでいかなければなりません。

各自がどう行動するのかを詰めていく必要があります」(大北氏)というように、災害支援活動を展開するにあたって、多くの課題があります。

**個人情報の保護が
活動のネックに**

地域には、民生委員のほか、校区福祉委員会や自治会に主防災など組織がいくつもあるため、役割分担をどうするかということが課題になっているといいます。「流れが何本もあるんです。それを地元で一つにしないといけない。何かあったとき



大規模災害時には民生委員が「要援護高齢者登録台帳」を持参し、安否確認調査へと各世帯へ赴きます。



大北氏が会長を務める西第一地区では、各民生委員を対象とした研修会を開催。災害時をはじめとする、高齢者に関するさまざまな問題への対処法などを学びます。

には地区が一致団結しないといけませんから。皆が社協の一員として連携する必要があると思います」と大北氏は語ります。

また、「個人情報の保護」も支援活動の壁となっています。

「要援護者台帳には高齢者や障がい者など、いわゆる災害弱者しか掲載されていません。でも災害時に避難するときには65歳以下の人も子どもも皆で避難するわけですが、私たちはその名簿がありません。それを自治会でまとめてくださいと要望するのですが、個人情報の保護というのがネックになつてなかなか出てこない」と大北氏。

西事務局長も、高齢者に日頃最も接しているケアマネージャーから情報提供を受けられないことにともどかしさを感じているようです。「ケアマネージャーは、高齢者の1週間の行動記録などをすべて把握しておられます。民生委員ではそこまでは分かりませんから。でも現実に災害が起きたときに「個人情報の問題があるので教えられません」といわれると対応できなくなつてしま

まうこともある。だからこそ事前に情報を共有しておきたいのですが…」と語ります。

関係機関とのさらなるネットワークづくりへ



さらに今後の課題として、東

大阪市社協では、介護の必要な高齢者や障がい者などを対象とした福祉避難所の確保を上げています。「特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど、東大阪市内の福祉施設に協力を仰ぎ、災害時に福祉避難所として活用するというしくみが平成21年度によくできました。まだ現時点では、受入可能数が少ないですが、例えば保育所は給食、デイサービスセンターは入浴といったように、一部のサービスなら提供できる場合もあります。



災害時支援活動のさらなる充実を目指し、熱く語る大北氏と西事務局長。強い意欲がうかがえました。

す。各施設と議論を深めていきたいです」と西事務局長。

大北氏も「民生委員や市社協、自治会、警察や消防などもすべて集まつた上で、災害時には各自どういった役割を担うのかを確認し、連携を図りたいですね。災害時にはまず頼りになるのは「遠くの親戚より、近くの他人」ですから、これを実践することです」と語り、今後も東大阪の市社協、民児協をはじめとする各団体が連携し、さらなる災害対策の拡充を目指しています。

民生委員・児童委員が活動しやすくなるために



定例会の様子

ボランティアで子どもたちに折り紙を教えます



第4回～四條畷市民児協～

無縫社会や孤立、孤独死、災害支援等の地域課題が複雑・深刻化する中で、民生委員・児童委員への期待は一層高まっています。一方で、活動の多忙さや負担感など、民生委員・児童委員が抱える活動上の課題も大きくなっています。

このような中で民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりを実現するためには、推薦の方からフォローアップ、協働促進、PR活動までを総合的に取り組む必要があります。今回はこれらを体系的に整理・検討し、取り組んでいる四條畷市民児協を取材しました。

そこで民児協として1年間検討を重ね、平成22年7月に「四條畷市民生委員推薦準備会設置要領」を作成しました。その成果は、区長さんや自治会長さんに、民生委員・児童委員の現状と役割が伝わり、理解と協力体制の推進に明確に表れました。現在はできるだけ早く、全市域に推薦準備会を設置できるよう、積極的に取り組みを進めています。

推薦の方についての検討

地域の協力体制の強化とPR活動

四條畷市民児協では平成19年度に児童委員が生じた際、次のなり手がなかなか見つからなかったことをきっかけに、適任者の選出や推薦の透明性など民生委員・児童委員の推薦のあり方にさまざまな意見が出されました。

そこで民児協として1年間検討を重ね、平成22年7月に「四條畷市民生委員推薦準備会設置要領」を作成しました。その成果は、区長さんや自治会長さんに、民生委員・児童委員の現状と役割が伝わり、理解と協力体制の推進に明確に表れました。現在はできるだけ早く、全市域に推薦準備会を設置できるよう、積極的に取り組みを進めています。

また、ボランティアフェスティバルや子どものイベント等、さまざまな団体と協働する機会に民生委員・児童委員や主任児童委員に関するパネル展示を行ったり、乳幼児の健診時にリーフレット配布し説明するなど、特に若い世代に向けたPR活動に積極的に取り組むことで次の担い手づくりにもつなげていきたいと考えています。

さらなる活動の充実に向けて

地域において各委員が抱える課題はさまざまです。その課題を委員一人が抱え込んでしまわないように、年11回開催される定例会では、その時々のテーマにあつた研修会や「ブロック」との情報交換、全地域の活動報告を組み合わせるなど、その内容を工夫しています。このことによって定例会が単なる伝達の場ではなく、各委員のスキルアップや、課題解決にむけての具体的な情報共有が進み委員同士の連携も深まる場として機能しています。特に新任の委員からは「『こういう場があつて本当に助かっている』といった声が聞かれるなど、不安感等による早期退任の防止にも一役買っています。

活動しやすい環境づくりに向けて、これらを一体的に取り組みながら、「孤立やひきこもり、虐待や増加する生活困窮者への支援など地域住民の課題も複雑かつ深刻になってきている。今後も住民に寄り添った相談援助活動を開拓するためにも、制度やさまざまな地域資源について学ぶ研修事業にさらに力を入れていきたい」と石原会長は話します。今後の取り組みが期待されます。



[民児協だより]

生徒たちが制作したストラップ



学校、地域の方々の協力で10年以上も続けることができたこと、そして何よりも生徒たちと一緒に作った感動は、私たち児童委員として

今年度は、児童委員のパネルによるPRと「作ってみよう！ストラップ」の事業です。

民生委員児童委員とは何かを知つてもらおうと、第1回から実際の活動事業や各委員の紹介と担当地区などをパネルで紹介。あわせて一緒にいろいろなストラップを作っています。毎年材料調達など準備は大変ですが、大勢の生徒たちが積極的に参加。特に男子生徒が次々にお互い教え合ったり、またあとから「さつき教えてもらつたおばちゃんありがとう」と言われて委員一同感動するなど、賑やかに交流をしています。

箕面市民児協では平成11年から「心豊かな子どもを育てる運動」の地域事業を各地区で子どもたちを対象に実施しています。

今回ご紹介するのは箕面市立第五中学校文化祭に毎年参加協力している民生委員児童委員によるPRと「作ってみよう！ストラップ」の事業です。

箕面市立第五中学校文化祭に参加

**箕
面
市**

員児童委員のパネルによるPRと「作ってみよう！ストラップ」の事業です。

民生委員児童委員とは何かを知つてもらおうと、第1回から実際の活動事業や各委員の紹介と担当地区などをパネルで紹介。あわせて一緒にいろいろなストラップを作っています。毎年材料調達など準備は大変ですが、大勢の生徒たちが積極的に参加。特に男子生徒が次々にお互い教え合ったり、またあとから「さつき教えてもらつたおばちゃんありがとう」と言われて委員一同感動するなど、賑やかに交流をしています。

民生委員・児童委員は



PR活動の一環として、市立第五中学校の文化祭に展示したパネル



生徒達は真剣そのもの!



ての地域活動の大きなエネルギーになっています。

箕面市民児協
会長 井上 義人

枚方市

安心カブセルの配付や

子育てサロンで、地域をサポート

民生委員・児童委員が、安心をお届けします

枚方市では、平成23年1月から「安心カブセル配布事業」をスタートしました。

この安心カブセルの配布に先立ち、昨年11月に枚方市と民児協とで配布に関する協定を結び、私たち民生委員・児童委員の日常の見守り活動の一環として、個別訪問し対象者へお届けしています。

この安心カブセルにつけられた愛称「あんしんココちゃん」の名のとおり、既に救急隊より役に立つたとの報告もあります。

ひとり暮らしの高齢者や支援を必要とする人たちへの地域ぐるみでのサポートの必要性が高まっている中、この安心

安心カブセル配布事業



カブセルで、ひとりでも多くの人を助けたいとの思いで、一生懸命、活動に努めています。

児童委員活動も活発です

安心カブセル配布活動とともに、子育てサロン「ゆりかご」にも取り組んでいます。民児協の495名の民生委員・児童委員、主任児童委員が、児童委員として携わっています。

このゆりかごは、平成16年より実施し7年目を迎えています。これまで、約2,000組の参加があり、ここ2年間は、時代のニーズに応え、プログラムを「はじめての離乳食づくり」として、日常の食事から手軽に作れる離乳食の献立としています。

お母さん・お父さんは、離乳食づくりの後の軽食タイムでフレッシュを囲つてもらい、育児相談コーナーでは、日々の悩み相談にも対応しています。

「久しぶりに、ゆっくり食事ができました」「こんなに簡単に離乳食が出来るなんて…」「友だちができる、うれしかった」「身近に民生委員・児童委員、主任児童委員さんがいることで、心強いです」など、さまざま

まな声をいただいています。

おみやげとして、主任児童委員連絡会で作成した「子育てマップ」をお渡し、お住まいの地域の担当民生委員・児童委員、主任児童委員へつなぐとともに、校区福祉委員会等が地域で実施する子育てサロンへもつなげています。

その他に、民児協児童福祉部会と保健所との共催で「ひよこ(未熟児)教室」を実施したり、公立保育所17カ所による「育児教室」への参加協力、も開催し、活発な児童委員活動を開催しています。

枚方市民児協



はじめての離乳食づくり

民児協だより



ポスターも
手づくり



「桜まつり」♪笑顔で交流♪

河内長野市

東日本大震災後の4月3日、まるで「佐保姫（春を司る女神さま）」が深い悲しみに打ちひしがれたような雲の「桜まつり」で始まりました。

ある地区では、今年も楽

しく賑やかに集えるようにと、アイデア満載で地域の人たちに交流の場を提供していました。心配ごと相談のボスターの前では、餃つかみ・たこせん・焼きそば、それに餅つき等々、またマジックショー、茶会と盛りだくさんの内容を準備。子どもたちのはじける歓声や笑顔がお日様を呼び、昼前にはすっかり青空となり、老いも若きも、途切れることなく訪れました。その日設置した義援金の募金箱にも多くの人たちのご好意をいただきました。

また同じ日、桜に囲まれたある施設では、高齢者部会



今年も会えて話がはずむ

の委員がボランティアとして参加しました。庭に張られたテントでよさこい鳴子踊りや昼食を楽しむとともに、寒さを気づかいながら和気あいあいと過ごしました。

八重咲きの桜の頃にある地区では、ゲームや手打ちそばなどで地域の交流を深

め、これには委員総出で参加し、今年の桜のファイナルを中心まで楽しみました。また多くの義援金もいただきました。

この他、河内長野では、自然とふれあいながらの地域福祉活動が季節ごとに各所で開催されており、広い空の下、のびやかに活動しています。

河内長野市民児協
副会長 横山 和子
(広報担当)



貝塚市



極的に関わっています。

ふれあい給食の配食活動

地域住民の交流の場となっている「ふれあい喫茶」



当市では、昭和57年から社協が実施しているふれあい給食（社協ボランティア手作りの昼食用弁当）の配食を民生委員が中心的に担い、地域のひとり暮らし高齢者の見守りを継続して行っています。現在では、小地域ネットワーク活動の個別支援活動に位置づけられ、月2回、約220名の利用者に配食しています。

最近は、個人情報保護の観点から、地域住民についての情報を得ることも年々難しくなっています。だからこそ地域の住民と直接顔を合わせ、話ができる関係を築いていくこの活動は、とても重要です。

福祉教育の一環として、小学生の子どもたちと一緒に楽しく届けることもあります。

この給食の財源となる「共同募金」にも全委員による街頭募金や法人募金の協力呼びかけなどで支援しています。

また、近年では、お年よりだけではなく、地域の住民が気軽に足を運べる場所づくりとして「ふれあい喫茶」の取り組みが広がり、現在、市内の20カ所近くで行なわれ、その立ち上げや運営にも積

配食活動により、普段から自然に話ができるきっかけとなり、定期訪問で生活の様子が理解できたり、話しづらい心配ごとも相談してくれるようになるなど、自然にふれあう関係が築かれています。

今後も、子育て支援や世代間のつながりを絶やさぬよう、地域住民のみなさんと一緒に考え、活動したいと思います。

貝塚市民児協広報部会



「ふれあい給食」の配食活動

[民児協だより]



毎年、恒例の
「こども映画会」



**高
槻
市**

地域で育てよう元気な子ども

高槻市民生委員児童委員

協議会では、4月から子育て支援の一貫として、地域で育てよう元気な子どもをスローガンに「オアシス運動」に取り組み、ポスター1500枚を作成して、民生委員・児童委員の各担当地区での掲示をお願いしました。

毎年、5月5日には、こども映画会を開催していますが、入退場時にはオアシス運動に基づき、民生委員・児童委員と親子たちとの元気な挨拶のやりとりで、活気がふれんばかりでした。

今年は、「トイ・ストーリー3」を午前と午後に上映して、計3000人の親子に楽しんでいただきました。おもちゃにも心があり、大切にしようという優しい気持ちを育んでもらえたことでしょう。



東日本大震災で被災された方々へ贈る、横断幕をみんなで協力して作りました



また、映画会に参加をした子どもたちの名前を、ファイト!という文字の中に記した横断幕を作成して、東日本大震災に遭われた宮城県南三陸町の避難所の方々に「元気」を届けることができました。地域は違つても、子どもたちの明るい笑顔が、私達の一番の願いである



ことには違いないと実感する一日でした。

**高槻市民児協
副会長 内丸 和子**

事務局だより

東日本大震災義援金への ご協力ありがとうございました。

3月11日に発生しました東日本大震災により広域にわたり甚大な被害が発生し、多くの尊い生命が奪われました。被災者の皆様に対し、心よりお見舞い申しあげます。

さて、このたびの甚大な灾害に対し、府民児協連として、3月25日に特に被害状況の大きい岩手県、宮城県、福島県に対し、大阪府社協、大阪府市町村社協連合会との連名により、県社協に対しての救援活動資金を送金しました。民生委員・児童委員や社協等、地元住民への支援活動にかかる資金として活用いただけたらと感じます。

また、被災地の民生委員・児童委員の被災状況といたしましては、5月9日現在、44名の犠牲者（死亡、行方不明含む）や多くの住宅損壊が報告されています。被災地の民生委員・児童委員の支援のため全民児連が全国の民生委員・児童委員を対象とした義援金募集を呼び掛け、大阪府民児協連といたしましても積極的に協力をし、5月31日現在の大阪府における募金総額6,937,285円が集まりました。皆様ご協力ありがとうございました。

被災地はもとより大阪府に避難されている方々も心労を重ね、不安な日々を過ごされていることと思います。被災者が避難先で孤立せず、安心して生活することができるように、地元の市町村民児協を中心には民生委員・児童委員として日頃、様々な悩みを抱えている地域の方を励まし、相談支援を行っていることを活かして、それぞれの地域の状況に応じた、避難者の励まし、相談支援活動に取り組んでまいりましょう。

大阪府民児協連事務局 新体制のお知らせ 平成23年度を迎え、 4月から事務局の担当者が変更しております。

- 事務局長 青木 美知子
- 事務局次長 林 洋司（新）
- 職員 西原 弘将／市川 香織（新）
- 職員 松本 可奈子（新）

宜しくお願ひいたします。

**民生委員・児童委員PRグッズ、
タスキ・ハッピ貸し出します！
また引き続き絆創膏も販売しております。**

大阪府民児協連では民生委員・児童委員の活動を多くの人に知つていただくためのPRやイベント時の展示等で活用できるよう様々なグッズを貸出しています。詳しくは府民児協連事務局までお問い合わせください。積極的なご利用をお待ちしております。

また本年度作成したPRグッズの絆創膏（1セット28円）についても、まだ本会にも若干の在庫がございます。購入希望がございましたら市町村の民生協を通じて府民児協連事務局までお気軽にお問い合わせください。



PR活動用のグッズ（パネル、提灯、ハッピ、タスキ）

表紙の商品と作業所の紹介

●社会福祉法人 コスモス●

第2ほくぶ 障がい者作業所のみなさん



「ミューズリーリーゲル」というドイツ菓子を知っていますか?名前にビンと来なくとも、ひまわりやかぼちゃの種、ごまなどが入った、歯ざわりの良いカラメルクッキーといえば、食べたことがある人も多いのではないでしょうか。このミューズリーリーゲルは、堺市にある「社会福祉法人 コスモス 第2ほくぶ障がい者作業所」のみなさんが作られているもので、第6回大阪府授産製品コンペティションでは優秀賞を受賞されました。

知的障がい者の通所授産施設である第2ほくぶ障がい者作業所では、10年ほど前から製菓事業に取り組み始めたそうです。とはいっても、クッキーやマドレーヌなどを扱う作業所は多く、「バザーなどに行くとどうしても同じような商品が多くなってしまうため、他とは違う物を作りたい」という思いがあった」と職員の岩間さん。2年前のある日、ヒントを得ようと、横浜のパン製造機械のメーカーが主催するドイツパンとドイツ菓子の講習会に参加し、「ミューズリーリーゲルが一番作りやすくて、おいしかった」ことから、商品の一つとすることを決めたといいます。



作業所の1階ではパンづくりを行っていました。



利用者さんは、クッキーの生地伸ばしやラッピングなど各自担当ごとに分かれて作業。取材当日はアメリカンクッキーの作業中でした。

バターとはちみつを贅沢に使ったカラメルで、土台のクッキーやひまわりの種を絡める、ミューズリーリーゲル。このカラメルを作るには、はちみつとバターを沸騰した状態で練らなければいけないため、作業は職員が担当。利用者さんは、計量やクッキーの生地伸ばし、ラッピングなどを行います。生地伸ばしなどはコツがいるそうですが、今ではすべて利用者さんに任せているといいます。

夏場には、タネが柔らかくなってしまい、油が回りやすくなるといった課題があったそうですが、製菓の専門家からのアドバイスを受けてレシピを見直すなど、よりおいしいミューズリーリーゲルづくりに取り組んでいます。また、異物混入などが起きないよう、帽子や白衣の形状を工夫したり、チェック表で確認するなど、安全・安心の商品作りにも努めています。

今年度は移動販売車を導入する予定で、パンやお菓子を販売する予定とのこと。あなたの家の近くにも訪れるかもしれませんね。

お問い合わせ先

〒591-8011
堺市北区南花田町532-3

TEL/FAX.072-254-3292



編集後記

東日本大震災による地震、津波、原発事故の大災害により多くの尊い生命が奪われました。被災地の皆様に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

被災地の一日もはやい復興にむけて民生委員・児童委員として求められる支援のあり方について自分自身考えていきたいと感じました。

Well ウエル
おおさか

VOL.25
(通巻59号)

発行日:平成23年7月

発行:大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局:大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyo.or.jp/minkyo/>



この冊子は再生紙を使用しています。